



Youth for Ofunato 学生ボランティア派遣
「第8回はまらいやプロジェクト」企画書

1. 活動概要

[背景]

2011年3月11日に発生した東日本大震災により岩手、宮城、福島を中心とした東北地方は甚大な被害を受けた。そこで、同年夏に岩手県大船渡市で復興支援活動を経験した青山学院大学の学生有志がYouth for Ofunato を設立し、2012年3月よりこれまで7回のボランティア派遣を実施してきた。8回目となる今夏は昨夏同様、夏期休業期間を利用して岩手県大船渡市にボランティアを派遣し、継続した自立支援活動と現地の方々との交流を図る。

[実施期間] 2013年8月9日—8月25日 (全2陣、各陣7名で活動)

[実施地域] 岩手県大船渡市

[受益者] 岩手県大船渡市在住の方々

[実施主体]

Youth for Ofunato、現地の方々

[活動内容]

被災地の視察・観光、仮設団地におけるコミュニティ形成支援、学習支援、現地の方々と学生の交流

[期待される成果]

被災地域の視察を続け、時とともに進む復興を実感し、変化するニーズを踏まえた活動を行う。また、復興支援に限らず、地域のことをより深く知る機会を持ち、愛着を持って「大船渡」に関わり続けるきっかけとなる。観光や現地の方々との交流を、ボランティア参加への動機となりやすい要素と見てプログラム内に設けることで、その後に復興支援活動の主体となり得るより多くの学生に参加を促す。観光を通じて、現地の商店や施設で消費する機会を増やす。さらにそこで感じた魅力を情報として外部に発信し、微力ながらも経済面の貢献を出来るようにする。

[目的]

1. 被災地域の住民が、助け合いながら自分たちの力で地域生活を送れるよう、コミュニティ形成・教育支援を通して、地域全体として前を向くきっかけづくりを行う。
2. 時間をかけて緩やかに形成されていくコミュニティの特性を踏まえ、学生ボランティアの継続的な派遣を行う。
3. 学生が持つエネルギーを現地に届け、復興に向かう住民に活力を与える。
4. 中高年世代が中心となりがちな住民組織の活動において「学生」という自らの立場を生かして同世代の若者や子どもの参加を促し、世代を超えた住民協力の架け橋となる。
5. 地域のことを知る、行動する、伝える、考え直す、全ての機会を多くの人に提供する。
6. 現地での活動を経験した者としてより多くの学生に直接支援に携わる機会を提供する。
7. これから社会に出ていく学生の中に復興への関心を持ち続ける個人を増やし、それぞれが輪を広げていく

2. 実施プロジェクト

1. 夏祭り開催補助

[背景と目的]

昨年まで夏祭りは現地で活動する NPO の支援を受けながら開催していた。しかし今年の3月をもって NPO が撤退したことを受け、今年の夏祭りは自治会単体で開催するにあたり、準備・運営面で学生にできることをサポートする。また、ブースの出展によって祭りの中に学生らしいエネルギーを持ち込み活気が溢れる交流の場をつくる。

[実施主体]

各仮設団地自治組織

[活動内容]

チラシ・ポスターの作成。仮設住宅の住民や周辺地域住民への呼びかけ等の広報活動。仮設住宅に住む中高生と協力しての、当団体主体の催しの内容の企画・運営。会場設営の補助。

[期待される成果]

夏祭りの開催の効率化を図るとともに、広報面をサポートすることによってより多くの参加者を見込める。また、ブース出展等の企画を現地の中高生とともに行うことにより祭り全体を盛りあげ、参加住民同士のつながり・交流を深めることが期待される。

2. 学習支援

[背景と目的]

震災による住環境の変化に伴い、子どもたちにとって勉強場所や自由に遊べる場所の確保が困難になった。そこで、仮設住宅内にある集会場などを利用して学習の場を提供し、自主的に学ぼうとする姿勢のサポートを目的とする。さらに勉強の場を通して子どもたち同士の親交を深める場を提供する。学童保育では人手不足の問題解決とともに、大学生と交流できる時間を提供する。

[実施主体]

各仮設住宅自治組織、学童保育施設・児童施設

[活動内容]

快適な学習時間の提供。学生の勉強のサポート。子供同士で交流することができる場所の提供。

[期待される成果]

学習の場を提供することで、自主的に学習する姿勢をサポートする。また仮設住宅内で同じように学習している子どもたち同士が顔合わせをすることによって、自主的に学習する意欲をより高め、親交を深めることが期待される。

3. コミュニティファーム活動補助

[背景と目的]

昨年に引き続き、長洞仮設住宅に隣接するコミュニティファームの活動をサポートする。人手を必要とするために、友結ファーム委員会のメンバーだけでは実施が困難な菜園周辺の土地整備を補助することで、人々がより足を運びやすい場とする。また、活動のなかで学生が中高年や子どもの中に入り、両者が関わりやすい雰囲気や自然に生み出すことを目指し、世代を越えた住民どうしが関わるきっかけをつくる。同委員会メンバーによって要望が出され、住民の手によってすでに準備が進められている肥料収納小屋の建設を補助する。

[実施主体]

長洞 友結ファーム委員会

[活動内容]

肥料収納小屋づくり、共同菜園付近の土地整備、草刈り、および肥料・建材の提供。

[期待される成果]

住民が主体的に運営する活動に学生が参加することで、生活再建に向けて世代を越えた助け合いのあるコミュニティ形成を促進する。肥料小屋建設の過程を通して、住民どうしが協力し合い、団結を深める機会となる。

4. 現地視察

[背景と目的]

大船渡市の復興に携わるにあたり、同市と、隣接する陸前高田市の被災状況を心得るべく、派遣に際しては毎回現地視察を実施してきた。東日本大震災による被害と、変わり続ける復興の状況を自らの目で見ることで、常に「今」の状況とそれまでの軌跡を知ることが目的とする。また、震災直後に比べて複雑化している現地のニーズを把握する手段の一つとして位置付ける。震災から2年が経ち、復興支援に携わる学生が減少してきていることが課題としてあげられる。そこで今年度から、支援活動と被災地視察に加えて観光をプログラムに盛り込むことで、支援以外の側面からも大船渡を訪れるきっかけになることを目指す。震災以前から在る現地の魅力に積極的に目を向けていく。

3. スケジュール・その他

[実施スケジュール]

- 10 日 活動開始、視察
- 11 日 LIGHT UP NIPPON 手伝い
- 12 日~ 夏祭り準備、学習支援
- 14 日 夏祭り (杉下仮設団地)
- 15 日 三陸港まつり 準備・手伝い
- 16 日 三陸港まつり
- 17 日~ 夏祭り準備、学習支援
- 24 日 夏祭り (長洞仮設団地)
- 25 日 活動終了

[学生ボランティア参加費]

9,000 円

内訳 : 17,620 円 (夜行バス往復代) のうち、8,620 円を当団体が補助
※別途現地で食費徴収。宿泊費、風呂代など未定。

[派遣期間終了後]

- 2013 年 8 月 振り返りミーティング (各陣)
- 10 月 夏期派遣報告会

▼連絡先

Youth for Ofunato 代表

国際政治経済学部 (国際政治学科) 4 年

永田 光央 : youthforofunato@gmail.com